

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	法学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 外国人学生の受け入れ環境を改善するために、生活及び学修相談を行う窓口を設置する。	→ 「学部の社会人学生・留学生・帰国生徒数」、「留学生の相談件数・相談内容の類型別件数」、「TA (Teaching Assistant: ティーチング・アシスタント) 数」、「学部卒業生の進路データ (キャリアセンター提供)」、「学部でのコース別選択者数 (司法コース選択者の%)」、「留学生のコース別内訳」	C	C			
2. 学生の海外派遣、国連ボランティアの参加推進のために懇談会 (説明会兼) を開催する。	→ 「懇談会開催数・参加人数・開催プログラム」、国連ボランティア (UNV) の参加者数	C	C			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★ 小項目 7.0.1	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
	(方針明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ ○ 明示している ● 明示していない (方針) 大学の関連部局と連携しながら、国際交流の進展に資する方策を定める。 (説明) 本年度のデータによると留学生受入人数は、昨年にくらべ、正規、交換とも若干増加している。留学生向けの相談は、基本的にはティーチングアシスタントによる「学修相談」や学部事務室のカウンターでの対応の中で実施している。しかしこうした窓口の利用は低調であり、留学生の日常的な相談や精神面のケアには及んでいない。また他部局でも特定の窓口ではなく、留学生懇談会の開催といった多様なチャンネルを通じて留学生の実態等を把握しているのが実情である。したがって現在、留学生の問題状況を把握するのに不可欠な情報を収集するとともに、留学生の受け入れ環境の改善に資する「窓口」(制度)の策定に努めている。留学生の受け入れについては、大学全体として取り組むべき問題でもあり、大学の関連部局と協力しながら、学部として実現可能なことを確認し、実施してゆくことが肝要と考えている。
★ 小項目 7.0.2	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。 (説明) 本年度の学生海外派遣数は、長期は昨年より若干増加し、短期は倍増した昨年度の数を持している。国連ボランティアの数も昨年よりも若干増加している。国連セミナーの参加者は、約半数を学部生が占めるにいたっている。現在、さらに国際交流を推進するため、留学生懇談会開催に向けて関係各部署での情報収集を行っている。
★ その他	

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【法学部】			単位	2006	2007	2008	2009	2010	2011	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	-	-	-	-	-	-	5/1現在	
指標2	国際交流協定締結国数		国	-	-	-	-	-	-	5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	-	-	-	-	-	-	・5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・累計数 ・交換は正規以外とする。 外国人留学生÷在籍学生数	
		外国人留学生	正規	人	16	16	15	11	12		9
			交換	人	9	2	12	5	8		
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	0.6	0.6	0.5	0.4	0.4		0.4
			交換	%	0.3	0.1	0.4	0.2	0.3		
その他(セミナー等による受け入れ)	人	-	-	-	-	-	-				
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	-	-	-	-	-	-	累計数	
		人数	長期	人	7	15	12	11	12	累計数 ・1学期以上を「長期」	
			短期	人	34	42	24	50	50	累計数 ・1学期未満を「短期」	
		在籍学生比率	長期	%	0.2	0.5	0.4	0.4	0.4	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数	
			短期	%	1.2	1.5	0.9	1.7	1.7		
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0	1	0	0	0	累計数 ・1年間以上を「長期」		
		短期	人	3	0	2	2	2	累計数 ・1年間未満を「短期」		
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	2	0	1	4	3	累計数 ・1年間以上を「長期」		
		短期	人	24	26	38	30	32	累計数 ・1年間未満を「短期」		
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	-	-	3	0	1	累計数 ・春・秋の合計		
指標8	外国人教員比率		%				3.8	3.8			

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

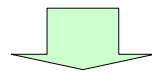
(その他の指標)
 協定校と相互交流数(学生・教員)
 国別国際交流協定締結先機関数
 国別留学生数(学部別)の経年変化

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 7.0.1	
★小項目 7.0.2	
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 7.0.1	
★小項目 7.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

III. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○学部の教育研究の特性の面からは国際交流の必要性は必ずしも高くないが、学部学生にとって海外の空気にふれることは国際化がますます進展していく現代の日本にとって必然の事柄と考えられる。その意味で、短期にせよ学生が派遣される現状は順調に進展していると考えます。

【学内委員】

○昨年度、留学生対応の取り扱い上のガイドライン作成が必要と記述されていましたが、現状説明をすることが期待されます。

○小項目7.0.1についてはまず方針を明示する必要があります。

○小項目7.0.1について、相談窓口が設置されていますが、利用状況が低調で十全には機能していない現状があります。そもそも小項目7.0.1は、国際交流のあり方について総合的な観点からの基本方針の明確化と明示を求めているものと考えられ、相談窓口のあり方を含め、もう少し幅広い観点から国際交流のあり方を検討する必要があります。この意味において、留学生の問題状況を把握するための情報を収集することは極めて重要ですが、情報収集の具体的な方法や収集したデータをどのように活用するのか、具体的な計画を「改善すべき事項」の中で記述する必要があります。

○方針は、「定める」とされていますので、(方針明示の有無)は「明示していない」へのチェックが妥当ではないかと思えます。

○小項目7.0.1の現状説明は、小項目7.0.2での説明だと思えます。小項目の番号は目標の番号とは連動していません。二つの目標はいずれも小項目7.0.2の内容かと思われ。

○現状説明された「窓口」の問題は、改善すべき事項にも示されればどうでしょう。

○昨年度、改善すべき事項に示された事柄について記述することによってPDCAサイクルが機能しているか確認できますので、記述が望まれます。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○「方針明示の有無」に関する指摘については、「明示していない」をチェックすることとする。

○小項目7.0.1の現状の説明に関しては、改善事項或いは改善方策として、国際交流についての方針を定めるための体制を整え、そのために必要な資料、情報を収集するものとする。

○小項目7.0.2の記述に関する指摘については、小項目7.0.1の現状説明「本年度のデータによると留学生受入人数は、昨年にくらべ、正規、交換とも若干増加している。留学生向けの相談は、基本的にはティーチングアシスタントによる学修相談や学部事務室のカウンターでの対応の中で実施している。しかし、こうした窓口の利用は低調であり、留学生の日常的な相談や精神面のケアには及んでいない。また他部局でも特定の窓口ではなく、留学生懇談会の開催といった多様なチャンネルを通じて留学生の実態等を把握しているのが実情である。したがって現在、留学生の問題状況を把握するのに不可欠な情報を収集するとともに、留学生の受け入れ環境の改善に資する「窓口」(制度)の策定に努めている。留学生の受け入れについては、大学全体として取り組むべき問題でもあり、大学の関連部局と協力しながら、学部として実現可能なことを確認し、実施してゆくことが肝要と考えている。」を小項目7.0.2の現状説明として記入することとする。